

『広島第二県女二年西組』を読んで

高（Ⅱ）名前（ 柳原 あい ）

私は高校2年生である。

私は時々隣でノートを取っている友達や後ろでぼんやりしている子がこの先の人生でどんな風に生きてゆくのか知riたくなる時がある。

この本はそういう本である。著者の級友がどのような人生の終りを迎えたのかがい書かれて いる本である。

私もいずれ大人になり、自分の人生を歩んでいく。しかし著者の級友たちはほとんど大人になることが出来なかつた。なぜなら、彼女達は1945年の8月6日に広島にいたからである。

この本は80年前に生きた自分の本なのだ、と私は感じた。



ノートルダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅱ) 名前(安富 四季)

当時の状況が、ありありと伝わってきて、
心が抉られるようでした。改めて原爆の恐ろしさ、
原爆の奪ったものの大きさを認識するとともに、
広島で生まれ育った者としてこの事を必ず後世に
伝えていかなければならないと思いました。



ノートルダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(2) 名前(中馬越 有莉)

家族や友達との日々、被爆後の様子が広がっていく
ように再現されていて、想像をめぐらした。学芸会
など楽しいこと、不安なことともどんな人だったか、
その人や家族の思い、大きな愛情があって、その分
原爆のむごさや表しきれない悲しみも感じた。
関さんの「記録は正確でありたい」という言葉とその信念が
印象に残った。



ノートルダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(2) 名前(佐藤 瑛衣)

一人に家族があり、今も被爆を思い出すことさえ辛い遺族がいると改めて感じさせられました。読むだけでもかなり辛く苦しかったです。



1-1144 清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅱ) 名前 (松本 奈々)

建物疎開中に被爆し、命を落とした少女たちの手記や家族の証言から、少女たちが生きていたかけがえのない日常が見えてきました。原爆によって未来を奪われてしまった名も顔もある少女たち一人一人の死と向き合うことで、戦争と平和について改めて深く考えることが出来る一冊です。



ノートルダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅱ) 名前 (南條 紗結子)

1人1人が"生きていた"という事実を後世に残していくとこそ
大切な本だと感じました。

今を生きる私たちと同じように夢も大切なもの
あった17女たちが"ずっと平和の心の中で"生き続けている
と感じます。



1-11 岡山清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(2) 名前(長島 菜津穂)

一ト一トにフォーカスすること、具体的な原爆の被害がいかにして
現実味がありました。関さんが敗戦直後に感じた、歪んだ
価値観の教育や級友の無惨な死への憤りを受け、この本を
読んでくたさ、関さんと多くの被爆された方々のために
核廃絶が実現されるよう、若い世代の私たちの努力が
不可欠だと改めて強く感じました。



ノートにダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅰ) 名前(濱崎 実里)

私は、今更け原爆に関する本をあつて読んだ"ことか"ありませんでした。

今回、この本を読み、悲しい戦争や原爆の実態に直面しました。

今更けのふもとに月を背けてきたものも、やはりちゃんと向き合えなければならぬと感じました。

今後は平和に関与する活動に今更けより積極的に参加し、後世に伝えていきたいです。



1-1144 清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高 (I) 名前 (田中 沙奈)

たまたま生き残ってしたのは作者が丁寧に当時のことを
記しているのを読んで改めて戦争はとも悲慘でありつたこと
ものだから実感しました。



1-114 広島清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(1) 名前(梶本美月)

「無惨なところの死体になって殺反」という言葉が
想像するだけで恐くて、自分が住んでいる広島という
町で80年前にそんな事があったことが亡くなったことを
忘れないようにしたいと思いました。



1-104 清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(1) 名前(糸岡 直紀)

原爆投下による未来を断られた少女たちの姿が描かれています。

戦争からいかに夢や日常を奪ってしまったのかを
とても痛感しました。学校生活、宿校と生活などから
いかに大切なことを奪われていたのか。

当たり前のことがどれほど大切かわかりました。



1-1044 清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(工) 名前 (津田 聖花)

原爆がただの歴史の出来事ではなくて、一人ひとりにちゃんと名前があり、
家族がいて、夢があったということがすごく伝わってきて、胸が苦しく
なりました。戦争や原爆を「悲惨だった」と表面的に理解するだけでは、
本当の意味で考えたことにはならないのだと思いました。関さんから
語り継がれた思いや、失われた命の重みを次の世代に、一ツ残らず
発信することが今を生きる私たちに求められていることを強く
感じました。



トビヤ清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(工) 名前 (岡本麗愛)

「一人一人を人間として書きたかった。」という関千枝子さんの言葉が心に残りました。
原爆で亡くなった一人一人に人生があり夢があったということを実感させられました。
いつも一緒にいるクラスメイトが全原で亡くなって二度と会えなくなるなんて、想像もしたく
ないし、そのようなことが起きてしまったという事実を多くの人に知ってもらいたいです
当時私と同年代だった人の被爆体験をあまり知りなかったので知ることができて
よかったです。この話を多くの人に伝えたいと思いました。



トトワム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅱ) 名前 (古市 菜々子)

○ たった14、15歳の子どもたちが動員で建物疎開の作業をしているときに原爆に遭ったと知り、私と同じ年かそれ以下の子どもたちが作業を頑張っているときにという状況と聞いて胸が痛みました。

○ 名前のリストや証言、風景が鮮明に書かれています。リアルでした。今まで受けてきた平和学習とは違う面から、その中を通して戦争を自分ごととしてより捉えることができました。



トトム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高(Ⅱ) 名前(高橋 明日香)

原爆で失った友人たちの原爆が投下されてから
どのように亡くなっていたかについてを詠んでみると
1人1人書かれていたので関さんがどれほどつらか
ったかを感じました。



ノートルダム清心高等学校

『広島第二県女二年西組』を読んで

高（工）名前（坂本 地佐互）

実際に体験したことがない私たちには、左様の本が少し恐ろしいかも知れませんが、生きている。しかし、知ろうとすることが大切だと思ふ、さくか、たぐは「数」ではなく「人間」で生きることが再確認させられた。解説に「生涯に一つしか書けぬ作品」とあるが、私にと、ても、生涯忘れぬ一本となった。



1-104 広島第二県女二年西組

『広島第二県女二年西組』を読んで

高（１）名前（平井 希実）

本地文枝さんという方の話で、ひどい火傷のせいでトイレにも行けず、
下着を裂いてから花を生ける水盤を使って済ませたという部分にとても
衝撃を受けました。女性がそのような形で排せつをせざるを得ない状況に
あったというのは信じられないくらい酷いことだと感じました。



『広島第二県女二年西組』を読んで

高(工) 名前(田辺 心実)

戦争の恐ろしさとその後の影響に筆者の経験においてリアルに描かれ、
痛切に感じました。

物語を通じて、無きや絶望を感じる場面もあり戦争のリアルを
鋭く突きつけてくれました。

